

アイリス Letter

保護者の皆様へ



2019年6月28日発行

第3号

広島女学院中学高等学校

聖書の言葉

「イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

ヨハネによる福音書 8章 31～32節

6月17日から22日が、平和を祈る週でした。今年度は、講師に佐藤優氏をお招きしました。20日から22日まで、本校を会場に、キリスト教学校教育同盟全国聖書科研究集会も同時に開催され、佐藤氏はその講師もなさいました。佐藤氏は、現在作家として活躍中ですが、元外交官でその知識の広さ深さは「知の巨人」と呼ばれる方です。22日特別礼拝では、中学生には「真理と自由」と題してお話くださいました。佐藤氏のお母さまは沖縄出身で、14才のときに終戦を迎えますが、それまで軍属として従軍したお母さまの経験を語ってくださいました。日本兵から自死するために手りゅう弾を渡され、ガマの中でいよいよ手りゅう弾を爆発させようとしたとき、隣の日本兵の「死ぬのはいつでも死ぬる。」の言葉で思いとどまったそうです。「勉強をしていれば、戦争に負けることが分かっていた。勉強することは、命に関わることだ。」とお話なさいました。また、高校では「与えることができる人になろう」と題してお話くださいました。1993年10月のロシアのモスクワ騒擾事件が題材でした。エリツィン政権初期に国務長官をつとめたブルブリスという人物の生きざまを教えてくださいました。事件の責任を自覚し、若者の育成こそロシアの未来を切り開くと、教育に私財を投じて尽力された姿でした。「与える人は、与えられる経験が必要。今は、一切を受ければよい。将来返せばよい。」とお話なさいました。佐藤氏は、ご自身が乳児院や少年刑務所の子どもの教育に関わられています。

佐藤氏のお話は、様々な受け取りができるものでした。そして、日々の勉強が平和をつくることにつながることを確認させていただきました。

全国聖書科研究集会には、75名の先生方が来られました。中学YWCA部や高校署名実行委員会の生徒たちが、発表や平和公園碑めぐり案内をし、とても感謝されていました。

少しさかのぼりますが、6月11日には、音楽鑑賞会をもちました。韓国からEnsembleLATのみなさんをお迎えしました。オーボエ・フルート・ファゴット・チェロの組み合わせで癒される演奏をしていただきました。後半は、マリンバ・ピアノ・パーカッションの演奏でした。卒業生の石原有希子さん、浅田真生さんの舞台はとても素敵でした。心弾む楽しい時をみんなまで共有し感謝です。

(校長)

平和を祈る週（6/17～6/22）

22（土）の特別礼拝講師には、元外交官で作家の佐藤優氏をお招きしました。佐藤さんは1960年に東京に生まれ、1979年、同志社大学神学部に入學、1984年、大学院神学研究科修了。外務省入省。主任分析官として対ロシア外交の最前線で活動。2005年に『国家の罣』で第59回毎日出版文化賞特別賞受賞。以後、職業作家として活躍。現在、同志社大学神学部客員教授、日本キリスト教団加茂教会員。



して対ロシア外交の最前線で活動。2005年に『国家の罣』で第59回毎日出版文化賞特別賞受賞。以後、職業作家として活躍。現在、同志社大学神学部客員教授、日本キリスト教団加茂教会員。

中学の礼拝では、「真理は私たちを自由にする」（ヨハネによる福音書8章32節）より、「私たちが勉強するのは何のためか」と問いかけられました。佐藤さんのお母さんは沖縄県久米島出身で、ひめゆり部隊と同じように14歳で沖縄戦に学徒隊として従軍し、「生き地獄」から生還。お父さんは東京大空襲を体験。戦争中は国もマスコミもウソをついたり、一つの方向に流されて、多くの命が失われてしまった。「勉強するのは真実を見抜く力をつけるためであり、命に関わることなのだ」と伝えて下さいました。

高校の礼拝では「受けるよりは与える方が幸いである」（使徒言行録20章35節）より、「与える人になろう」と語りかけられました。外交官としてソ連崩壊に立ち会った時に会ったブルブリスという政治家が、暴動鎮圧の際、「神は私のことを赦して下さいだろうか？」と佐藤さんに問い、「今日流された血に対して私は一生、責任を負わねばならない」と、その後、政治から身を引き、未来を担う若者の育成に私財を投じて尽力していった。本当のエリートとは与えることができる人。今の日本にも皆さんと同じ年頃で、生まれた境遇が少し違うために苦しんでいる人たちが大勢いる。人に与

えられるためには、まず受けなくてはならない。先生や親、神様から与えられたものを、相手にではなく、将来、隣人へ、社会へと返していかなければならない。「自分の関心や力を、どうやったら人の役に立てることができるかを考える人になって下さい」と語られました。

週間中、中学では礼拝委員会企画によるDVD『つるに乗って～ともこの冒険』上映、8・6平和記念式で広島女学院原爆慰霊碑と卒業生の森本順子さんの被爆体験を伝える原爆絵碑に捧げる千羽鶴の作成などが行われました。



高校宗教委員会は、「昼のつどい」として、海外研修の引率教員による「教員目線のグローバル教育鼎談」、「金信先生による絵本読みかせ&紙芝居」、「戦前戦後写真のカラー化プレゼン」を企画実行しました。

※なお、6/20～22の3日間、本校を会場に全国聖書科研究集会が開催され、70数名の先生方が本校の平和教育・授業・礼拝などを見学され、高校署名実行委員会や中学YWCAによる女学院の被爆や平和活動についての紹介、生徒担当礼拝や高校特別礼拝での宗教委員の司会など、生徒が主体的に動く姿に、高い評価をいただきました。

（宗教教育委員会）

教育実習について

6月1日から3週間（または2週間）、10名が本校で教育実習生として、授業やHRに参加しました。卒業生、先輩という立場ではなく、教師として生徒に接すること、教えることや学びの姿勢を引き出すことの難しさ、その準備の大変さに気付くことができたようです。彼女たちの今後の活躍を期待します。

（教育実習係）

音楽鑑賞行事

6月11日（火）ゲーンズホールにて音楽鑑賞会が2部構成で行われました。

第1部は、韓国からお越しいただいた

EnsembleLATの皆さんによるフルート、オーボエ、ファゴット、チェロによる演奏。幅広いジャンルの



の作品を柔らかい素敵な音色で、ホールを包み込んでくれました。第2部は、卒業生の石原有希子さん（マリンバ）、浅田真生さん（マリンバ・パーカッション）、ピアニストの大江枝里子さんによる演奏。曲に合わせて手拍子をしたり、楽器の説明を丁寧にお話しして下さったおかげで、音楽をより身近に感じる事ができ、会場が演奏者と聴衆で一体となりました。



普段生活している学校の中ではありますが、少し日常から離れて音楽を楽しみ、生徒の皆さんと共に良い時を過ごせたことを大変嬉しく思いました。これからも様々な出会いを通して、豊かに歩んでいきたいです。演奏者の皆様のご活躍をお祈りしています。

（音楽科主任）

地区会役員会

6月18日（火）13時30分から中学チャペルで第1回地区会役員会を行いました。PTAの地区会担当副会長（PTA副会長）、校長のあいさつに続き、高校、中学、事務よりそれぞれ報告を致しました。各学校行事ほか、今年から始まったExtensive Program (EP)についても様子をお話しました。

バザー担当副会長（PTA副会長）からは、文化祭におけるPTAバザーの協力の呼びかけと昨年度変更した点（収集品のひとつであるお菓子の仕入れ上限数）に関する結果に

ついて報告があり、それを踏まえ、今年度も同じ方針で実施するとのことです。詳細と収集の指示等につきましては、各地区会の担当者より依頼があると思いますので、皆さまどうぞご協力よろしくお願い致します。

最後に全地区会役員より昨年度の活動報告をして頂きました。およそ半数の地区会では生徒を含めた懇親会を実施していますが、全体的な気づきとして、「参加率がアップするような工夫をする」「懇親会を実施してみる」などが多く聞かれました。

地区会は生徒、保護者ともに学年を超えた地域のつながりができる場所です。また、それぞれの地区における様々な情報や通学時の注意事項など役に立つ情報も得られます。ぜひこのような場を積極的に活用してください。

地区会を支えて下さる役員の皆さまをはじめ、保護者の皆さまの温かいご協力とご支援に感謝しつつ、今年度第1回の地区会役員会を無事に終えることができました。

（高校教頭）

保健室だより（3）

今年度の定期健康診断は全て終了しました。受診を勧められた人については早めにかかりつけ医で診てもらいましょう。各種検診や尿検査については、未受診の生徒もいます。有料にはなりますが、一度受診をしておくことをお勧めします。

また、熱中症が心配される季節になりました。睡眠不足や、朝食抜きといった生活習慣の乱れがある人、日頃暑さに慣れていないという人は熱中症になりやすい傾向があります。水分補給を小まめにして対策をしましょう。



（保健室）

心の健康 (3)

前回に引き続いてストレス解消のヒントを頭文字順にお知らせします。今回はTです。

T=tree ・自然にふれよう

木で代表される山、また川・海など自然にふれて心がやすらぎ、ストレスが消えていくことを体験した人は多いと思います。

最近では機器に囲まれての生活で、いろいろなことがとても便利になったこともあり、私たちは人間のもつ動物性について忘れがちです。

動物性というのは食べたり、体を使って動いたり、睡眠をとったり。また草花や山や川などの自然に親しむことです。

今は舗装され土がほとんど見えない生活ですが、実は人も木も植物も大地に生かされています。それで大地の営みである自然にふれると人間の原点に帰り、人間らしさを取り戻し、心身共にリラックスするのでしょう。

7月の学校生活は期末テストや夏休みなど状況はいろいろと変化します。親子でまたお友達で自然にふれて、健康な生活を守りましょう。

(カウンセラー)

生徒の活躍

《中学》

◇中学剣道部

*平成31年度広島市中学校剣道選手権大会

団体 : 3位

◇中学放送部

*第39回広島県中学校放送コンテスト

(第36回NHK杯放送コンテスト県予選)

団体 : 総合2位

部門別 : テレビ番組部門

「叫ばずにはいられない・・・？」 3位

アナウンス部門

N・Y (3-4) 1位

朗読部門

U・H (3-2) 4位

U・K (3-5) 入選

◇個人の活躍

*広島市中学校水泳競技選手権大会

個人 : N・K (2-4)

400m自由形 8位

K・K (2-5)

800m自由形 8位

《高校》

◇高校卓球部

*第72回広島県高等学校総合体育大会

(卓球競技)

女子学校対抗 : B級 3位

◇高校バスケットボール部

*第72回広島県高等学校総合体育大会

(バスケットボールの部)

⇒7年ぶり 県総体ベスト16

◇高校新体操部

*第72回広島県高等学校総合体育大会

新体操の部

団体 : 1位

⇒中国大会・全国大会(インターハイ)
出場権獲得

個人 : 一部総合

M・H (2-E) 8位

二部クラブ

K・H (3-C) 1位

K・C (3-A) 3位

二部ボール

F・R (1-C) 2位

*第60回中国高等学校新体操選手権大会

団体 : 3位

◇高校水泳部

* 広島県高等学校総合体育大会 (競泳)

個人 : G・R (2-D)
100m背泳ぎ 6位
K・Y (1-C)
800m自由形 6位

団体 : 800mリレー 8位
N・Y (1-C)
K・Y (1-C)
S・Y (1-D)
G・R (2-D)

* 広島地区選手権水泳競技大会

個人 : G・R (2-D)
100m背泳ぎ 4位
200m背泳ぎ 4位
⇒県大会への出場権獲得
K・Y (1-C)
400m自由形 2位
800m自由形 3位

⇒県大会への出場権獲得
N・Y (1-C)
50m自由形
100m背泳ぎ
⇒県大会への出場権獲得
S・Y (1-D)
Y・S (1-E)
⇒リレーメンバーとして
県大会への出場権獲得

* 広島県選手権水泳競技大会

個人 : G・R (2-D)
100m背泳ぎ 5位
200m背泳ぎ 6位
K・Y (1-C)
400m自由形 7位
800m自由形 5位

⇒両名とも中国選手権大会への出場権獲得

団体 : 800mリレー 8位

N・Y (1-C)
K・Y (1-C)
S・Y (1-D)
G・R (2-D)

⇒中国選手権大会への出場権獲得

◇高校放送部

* 第66回NHK杯全国放送コンテスト
(中部地区大会)

個人 : 朗読部門

T・K (3-B) 優秀賞
N・H (3-B)
N・T (2-B)

アナウンス部門

Y・F (3-B) 優秀賞
I・M (3-E) 優秀賞
H・M (2-D)

⇒以上6名県大会出場権獲得

* 第66回NHK杯全国放送コンテスト

(広島県大会)

個人 : 朗読部門 審査員奨励賞

N・H (3-B)

アナウンス部門 審査員奨励賞

Y・F (3-B)

I・M (3-E)



教職員の動向

○吉田絵理子先生のご母堂様が5月13日にご逝去されました。ご家族の上に神様の慰めがございますようお祈りいたします。

○畑野善信先生のご義母様が5月29日にご逝去されました。ご家族の上に神様の慰めがございますようお祈りいたします。

7月行事予定表

1	月	
2	火	
3	水	
4	木	期末テスト(高1) 1限8:55~
5	金	(中3、高2・3) 1限8:55~
6	土	(中1・2) 1限8:55~15分休憩 中1父親母親教室
7	日	
8	月	1限8:55~15分休憩
9	火	1限8:55~15分休憩
10	水	テスト予備日(自宅学習日)
11	木	テスト返却
12	金	
13	土	高1・2進研模試 高3進研記述模試
14	日	
15	月	海の日 オープンスクール るんるん女学院
16	火	1限8:55~ 40分授業 月曜授業
17	水	中高共に7限まで 期末テスト素点確認 講演会(中)6限(高)7限
18	木	1限8:40~ 40分授業
19	金	1限8:55~ 40分授業
20	土	4限 大掃除(50分) (L) 中2・3父親母親教室 高3補習・面接
21	日	
22	月	火曜授業 7・8限 終業礼拝 LHR
23	火	中2チャレンジキャンプ 勉強合宿 夏期海外生活体験学習
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	



今月の聖句

「主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」

(使徒言行録 20 章 35 節)

平和を祈る週特別礼拝講師の佐藤優さんは、「限られた人生の中で、自分が他者から『受けること』を第一義に考えるのではなく、他者に自分が何か『与えること』ができないかと考えることにより、この世界が異なって見えるようになる。」、また「日本が危機的状況から脱出するために、偏差値競争から抜け出して、真に知識を得て、活用するような教育を定着させること……そして『受けるよりは与える方が幸いである』という考え方が教育の基本に据えられるべきだと考えている。」と著書の中で述べられています。

女学院はきつともう、そのような教育を、ゲーンズ先生の頃からめざしてきたのではないかと思います。

(聖書科 T. M)

